

川崎市職員衛生管理審査委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、川崎市職員安全衛生管理規則（平成18年川崎市規則第27号。以下「規則」という。）の規定に基づき、川崎市職員衛生管理審査委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関する事項について、定めるものとする。

(組織)

第2条 委員は、医師その他市長が必要と認める者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

ただし、医師は、産業医2名（区役所担当）、専門医（精神科2名、内科1名、外科1名、産婦人科1名、整形外科1名）で構成する。

- 2 委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 6 委員は、事故又はやむを得ない事由がある場合で、当該委員が適当と認める者（以下「代理委員」という。）を選任し、委員長にその旨を届け出たときは、当該代理委員にその職務を行わせることができる。

(審査会の開催)

第3条 委員会は、市長の請求に基づき毎月1回以上会議（以下「審査会」という。）を開催するものとする。

- 2 審査会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。
- 3 審査会は、次の各号に掲げる事項の種別に応じ、部会に分けて審議する。

(1) 精神疾患に係る事項 第1部会

(2) 結核性疾患及びその他の疾患(精神疾患を除く。)に係る事項 第2部会

4 審査会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

5 審査会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長が決する。

6 代理委員が審査会に出席する場合において、第4項中「委員」とあるのは「委員(代理委員を含む。)」と、前項中「出席委員」とあるのは「出席委員(出席代理委員を含む。)」と読み替えるものとする。

7 委員会は、必要があると認めるときは、関係人の出席を求め、又は意見を聴くことができる。

(審査)

第4条 委員会は、規則第23条の規定に基づく審査を行い、市長は、審査に基づく意見を勘案し、必要な措置を講ずるものとする。ただし、市長が特に委員会の審査の必要がないと認めたものについては、この限りではない。

2 市長を除く他の任命権者(以下「他任命権者」という。)の部局に属する長期療養者から他任命権者に規則第21条の規定による報告と同様の報告又は規則第22条の規定による申出と同様の申出があり、他任命権者が委員会の意見を聴くときは、前項の規定を準用する。この場合において、「市長」とあるのは「他任命権者」と読み替えるものとする。

(提出書類)

第5条 委員会は、市長から次の書類の提出を受け、審査を行う。

(1) 病状報告書(第1号様式)

(2) 診断書(結核性疾患(第2号様式)又は非結核性疾患(第3号様式))

(3) 所属の意見(第4号様式)

(4) その他必要資料

2 前条第2項に基づき他任命権者が委員会の意見を聴くときは、前項の規定

を準用する。

(秘密の保持)

第6条 委員（代理委員を含む。）は、職務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務企画局人事部労務厚生課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるほか、委員会の運営等に必要な事項は総務企画局長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 5 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 7 年 6 月 4 日から施行する。

病状報告書

任命権者

様

記載日： 年 月 日

職員住所			
所属			
職名		職種名	
職員コード		フリガナ	
		氏名	

次のとおり療養の現況を報告します。

1	負傷又は発病の日	年 月 日	3	病気休暇開始の日	年 月 日
2	療養開始の日	年 月 日	4	休職開始の日	年 月 日
5	傷病名		6	傷病の種類	<input type="checkbox"/> 公傷病 <input type="checkbox"/> 私傷病 (<input type="checkbox"/> 結核 <input type="checkbox"/> 結核以外)
	出産予定日	年 月 日			
	産休入り日	年 月 日			
7	入院した病院及びその期間		入院期間	年 月 日 から 年 月 日 まで	
8	通院中の病院				

9 療養に至った経過 ◆初回時記載

10 療養に至った要因 ◆初回時記載・精神疾患のみ 【別表1・2を参照し記載すること】

①仕事のこと				②仕事以外のこと				③心身の健康のこと	
仕事の量	対人関係(上司)	役割の変化		結婚	死別	身体疾患			
仕事の質	対人関係(部下)	地位の変化		妊娠・出産	対人関係	精神疾患			
長時間労働	対人関係(同僚)	特になし		子育て	事件・事故・災害	身体障害			
仕事の失敗	ハラスメント(職場内)			離婚・別居	金銭関係	精神障害			
事故や災害	ハラスメント(職場外)			介護	特になし	特になし			

11 療養の状況及び傷病の経過

(1) 療養 入院 通院 往診

(2) 安静 主に横になっている 多少起居ができる 起居ができる

(3) 手術 行なった 行なう予定 行なわなくてもよい

(4) 傷病 よい方に向かっている 変わらない 悪くなっている

(5) その他 []

12 日常生活の概要

(1) 睡眠 よく眠れる 普通 よく眠れない

(2) 食事 よく食べられる 普通 食べられない

(3) 起居時間 主に散歩する 主に読書する その他 []

(4) 入浴 できる 多少できる できない

(5) 近況 []

13 職務復帰の申出

出勤可能 年 月 日 から

休養延期 年 月 日 まで

※ 添付書類及び資料

診断書 所属の意見 試し出勤状況報告書

X線写真等 その他 []

※所属課の意見

職務復帰 年 月 日 から

療養の継続 年 月 日 まで

その他 []

(別表1)

	項目	記載事項
1	負傷又は発病の日	当該傷病の負傷又は発病した年月日
2	療養開始の日	当該傷病の治療を開始した年月日
3	病気休暇開始の日	病気休暇を開始した年月日
4	休職開始の日	休職開始の年月日
5	傷病名	診断書の傷病名
	出産予定日	出産予定年月日（妊娠中の場合のみ）
	産休入り日	産休入り年月日（妊娠中の場合のみ）
6	傷病の種類	公傷病か私傷病（結核・結核以外）を選択
7	入院した病院及びその期間	入院した病院及びその期間（入院した場合のみ）
8	通院中の病院	通院中の病院・クリニック名
9	療養に至った経過	療養に至った契機や要因等を含む経過 ★初回に記載すること
10	療養に至った要因	①～③の中で最もあてはまるものに◎（1つ）、①～③それぞれにおいて、あてはまるものに○（最大3つ）を記載（別表2参照）★初回に記載すること・精神疾患のみ
11	療養の状況及び傷病の経過	該当する項目を選択
12	日常生活の概要	該当する項目を選択
13	職務復帰の申出	「出勤可能」あるいは「休養延期」の年月日
※	添付書類及び資料	添付書類及び資料を選択（所属にて記載）
※	所属課の意見	「職務復帰」あるいは「療養の延長」の年月日等を記載（所属にて記載）

(別表2)

	要因	具体例
① 仕事 の こ と	1 仕事の量	業務量の急増、担当者の減少等
	2 仕事の質	業務内容の変更や初めて担当する業務、日常的には実施しない困難な業務の実施等
	3 長時間労働	1か月に80時間以上の時間外労働、2週間上にわたって休日のない連続勤務等
	4 仕事の失敗	業務に支障が出るようなミス等
	5 事故や災害	業務により病気やケガ、業務に関連し悲惨な事故や災害の体験、目撃等
	6 対人関係（上司）	上司から、業務指導の範囲内で強い指導・叱責を受ける等
	7 対人関係（部下）	部下との対立等によって業務上の必要な協力が得られず、業務に一定の影響があった等
	8 対人関係（同僚）	同僚との対立等によって業務上の必要な協力が得られず、業務に一定の影響があった等
	9 ハラスメント（職場内）	上司等から身体的、精神的攻撃等のパワーハラスメントやセクシャルハラスメント等
	10 ハラスメント（職場外）	市民等から暴行、人格や人間性を否定するような言動を受ける等
	11 役割の変化	入庁・異動・配置転換等
	12 地位の変化	昇任・昇格等
	13 特になし	仕事のことに関する要因はない。
② 仕事 以 外 の こ と	1 結婚	結婚に伴う出来事
	2 妊娠・出産	妊娠、出産、流産等
	3 子育て	親子の不和、子どもの問題行動、子どもの入試・進学・受験等
	4 離婚・別居	離婚又は配偶者・パートナーと別居
	5 介護	親・兄弟等の介護
	6 死別	配偶者、子ども、親族、友人等の死亡
	7 対人関係	家族や友人との不和、失恋、異性関係のもつれがあった等
	8 事件・事故・災害	天災や火災、犯罪、交通事故等
	9 金銭関係	財産の損失、多額の出費、借金等
	10 特になし	仕事以外のことに関する要因はない。
③ 心 身 の 健 康 の こ と	1 身体疾患	身体疾患の悪化等
	2 精神疾患	精神疾患の悪化等
	3 身体障害	身体障害によるもの
	4 精神障害	精神障害によるもの
	5 特になし	心身の健康のことに関する要因はない。

病状報告書

記載した年月日

記入例

任命権者

川崎市長

様

住所等を記載

記載日： 令和7年 7月 1日

↑ プルダウンから選択
手書きの場合は記載

記載事項は右側
(印刷の場合は裏面)
別表1・2参照

Table with employee information: 職員住所 (川崎市川崎区宮本町1番地), 所属 (総務企画局人事部労務厚生課), 職名 (事務職員), 職種名 (一般事務職), 職員コード (0000000), フリガナ (カワサキ タロウ), 氏名 (川崎 太郎)

次のとおり療養の現況を報告します。

Table with injury and treatment details: 1 負傷又は発病の日 (令和7年5月10日), 3 病気休暇開始の日 (令和7年6月15日), 5 傷病名 (適応障害), 6 傷病の種類 (私傷病), 7 入院した病院及びその期間 (〇〇クリニック)

妊娠時のみ記載

入院時のみ記載

チェックボックスをクリック
手書きの場合は
チェックを記載

9 療養に至った経過 ◆初回時記載
令和7年4月に現職場に異動。全く経験のない仕事であり、苦手とする調整業務等を担当することになり、同僚に教わりながら仕事を進めていたが、次第に眠れない、食欲低下、職場に行く途中に胸がドキドキする等の症状が出現。同時期に、子どもが保育園に入園し、送迎をしなければならなくなり、かつ、実家の父親が入院し、介護をしなければならなくなった。心配した家族に受診を勧められ、5月10日に〇〇クリニックを受診。服薬で様子を見ていたが、症状が悪化したため6月15日から病気休暇を取得することになった。

10 療養に至った要因 ◆初回時記載・精神疾患のみ 【別表1・2を参照し記載すること】
①仕事のこと (仕事の量, 対人関係, 役割の変化)
②仕事以外のこと (結婚, 死別, 妊娠・出産, 対人関係, 子育て, 事件・事故・災害, 離婚・別居, 金銭関係, 介護, 特になし)
③心身の健康のこと (身体疾患, 精神疾患, 身体障害, 精神障害, 特になし)

11 療養の状況及び傷病の経過
(1) 療養 (入院, 通院, 往診)
(2) 安静 (主に横になっている, 多少起居ができる)
(3) 手術 (行なった, 行なう予定, 行なわなくてもよい)
(4) 傷病 (よい方に向かっている, 変わらない, 悪くなっている)
(5) その他 (仕事のことを考えると不安になる)

チェックボックスをクリック
手書きの場合はチェックを記載

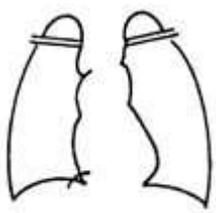
12 日常生活の概要
(1) 睡眠 (よく眠れる, 普通, よく眠れない)
(2) 食事 (よく食べられる, 普通, 食べられない)
(3) 起居時間 (主に散歩する, 主に読書する, その他 (動画視聴をする等過ごしている))
(4) 入浴 (できる, 多少できる, できない)
(5) 近況 (家族と近隣に買い物に出かける、子どもの保育園の送迎はできている)

13 職務復帰の申出
出勤可能 (年月日) から
休養延期 (令和7年 8月 31日) まで

※ 添付書類及び資料
診断書, 所属の意見, 試し出勤状況報告書, X線写真等, その他

※ 所属課の意見
職務復帰 (年月日) から
療養の継続 (年月日) まで
その他



<h1 style="margin: 0;">診 断 書</h1>	年.....月.....日		
医療機関所在地.....				
医療機関名.....				
医師.....				
次のとおり診断します。.....科..... ㊟				
住所 〒.....				
氏名・性別 <div style="text-align: right;">男・女</div>	生年月日・年齢 昭和・平成 年 月 日 (歳)			
診断名	合併症			
胸部 X 線検査所見  <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 病型分類..... (年 月 日) </div>	菌検査			
	検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	検体	喀痰・胃液・気管支洗浄液・その他 ()	喀痰・胃液・気管支洗浄液・その他 ()	喀痰・胃液・気管支洗浄液・その他 ()
	塗末
	培養
その他の検査所見	結核菌同定検査 PCR・TB・DDH・DirectTB・その他 () 検査日： 年 月 日 結果： ()			
1 経過の概要 (症状及び治療方法)				
ー処方内容ー				
2 備考				
3 今後の見込み <input type="checkbox"/> 勤務不可 (年 月 日まで) <input type="checkbox"/> 勤務可 (年 月 日から) 勤務上の注意・医療の要否及びその内容				



診 断 書

.....年.....月.....日

医療機関所在地.....

医療機関名.....

医師

次のとおり診断いたします。.....科..... (印)

住所 〒.....

氏名・性別

男・女

生年月日・年齢

昭和・平成 年 月 日 (歳)

傷病名

合併症

*御記入に際しては裏面を御参照ください。

1 経過の概要 (症状及び治療方法)

— 処方内容 (種類・量等) —

2 参考となる検査成績・事項

3 今後の治療方針

4 今後の見込み

勤務不可 (年 月 日まで)

試し出勤開始可または試し出勤継続可 (年 月 日から)

勤務可 (年 月 日から) *フルタイム勤務が可能な時期を御記入ください。

勤務上の注意・医療の要否及びその内容

記入上のお願い

記入内容については、次の点に御留意ください。

- 1 経過の概要（症状及び治療方法）、処方内容（種類・量等）、参考となる検査成績・事項、今後の治療方針等については、できるだけ具体的に御記入ください。
- 2 今後の見込みの欄は、審査会開催月の翌月について復帰可能（フルタイム勤務）なのか、試し出勤可能なのか、療養継続なのかを御記載ください。
- 3 試し出勤について

川崎市では、「川崎市職員試し出勤取扱指針」に基づいて、**精神疾患**により職務を離れている長期療養者を対象として、病気休暇中・休職中に試し出勤を行っております。詳細については、お問い合わせください。

また、病状について、産業医や事務局担当保健師から御連絡させていただく場合もありますので、よろしくお願いたします。

川崎市職員衛生管理審査委員会とは

川崎市職員衛生管理審査委員会は、長期（1か月以上）に療養している職員、もしくは復職の見込みのある職員の健康管理の徹底を図るとともに適切な人事管理がなされることを目的として、川崎市職員安全衛生管理規則第23条の規定に基づき設置されています。

この委員会の審査対象は、原則として1か月を超えて病気休暇をとった職員で、病気が回復して職務復帰する場合または療養の継続をする場合にこの審査を受けることになります。

委員会は、毎月第3木曜日に審査会を開催し、提出された診断書及び参考資料（諸検査の成績、X線フィルム、心電図等）、本人の病状報告書、所属の意見書ならびに産業医の意見を基に専門医を中心とした審査委員が、対象職員の療養継続の要否や復職の可否について審議しています。

なお委員会で審査できる療養継続の期間は最長3か月までとなっており、それ以上の療養が必要な場合は再度審査することになっております。

問い合わせ・連絡先 川崎市職員衛生管理審査委員会事務局
総務企画局人事部労務厚生課健康管理担当
住所 川崎市川崎区宮本町1
電話 044-200-2485
FAX 044-200-3715

所 属 の 意 見

記載日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

所属	
所属長氏名	

療養者 _____ について次のとおり報告します。

1 療養に至った経過 ◆初回時記載

2 療養に至った要因 ◆初回時記載・精神疾患のみ 【別表1・2を参照し記載すること】

①仕事のこと				②仕事以外のこと		③心身の健康のこと	
仕事の量	対人関係（上司）		役割の変化	結婚	死別	身体疾患	
仕事の質	対人関係（部下）		地位の変化	妊娠・出産	対人関係	精神疾患	
長時間労働	対人関係（同僚）		特になし	子育て	事件・事故・災害	身体障害	
仕事の失敗	ハラスメント（職場内）			離婚・別居	金銭関係	精神障害	
事故や災害	ハラスメント（職場外）			介護	特になし	特になし	

3 本人の状況

4 職場の受け入れ体制

5 所属の意見

療養の継続が望ましい _____ 年 _____ 月 _____ 日 まで

職場復帰が可能である _____ 年 _____ 月 _____ 日 から

6 その他

(別表1)

項目	記載事項
1 療養に至った経過	療養に至った契機や要因等を含む経過 ★初回に記載すること
2 療養に至った要因	①～③の中で最もあてはまるものに◎（1つ）、①～③それぞれにおいて、あてはまるものに○（最大3つ）を記載（別表2参照） ★初回に記載すること・精神疾患のみ
3 本人の状況	連絡方法、面談等の頻度、病状、生活状況、家族等の支援状況、療養の継続の必要性、復職の意欲、試し出勤に向けての準備状況、試し出勤中の様子等
4 職場の受け入れ体制	診断書の勤務上の注意等を踏まえた復職時の職場の配慮事項
5 所属の意見	「療養の継続が望ましい」あるいは「職場復帰が可能である」の年月日
6 その他	1～5以外の特記すべき事項

(別表2)

	要因	具体例
① 仕事のこと	1 仕事の量	業務量の急増、担当者の減少等
	2 仕事の質	業務内容の変更や初めて担当する業務、日常的には実施しない困難な業務の実施等
	3 長時間労働	1か月に80時間以上の時間外労働、2週間上にわたって休日のない連続勤務等
	4 仕事の失敗	業務に支障が出るようなミス等
	5 事故や災害	業務により病気やケガ、業務に関連し悲惨な事故や災害の体験、目撃等
	6 対人関係（上司）	上司から、業務指導の範囲内で強い指導・叱責を受ける等
	7 対人関係（部下）	部下との対立等によって業務上の必要な協力が得られず、業務に一定の影響があった等
	8 対人関係（同僚）	同僚との対立等によって業務上の必要な協力が得られず、業務に一定の影響があった等
	9 ハラスメント（職場内）	上司等から身体的、精神的攻撃等のパワーハラスメントやセクシャルハラスメント等
	10 ハラスメント（職場外）	市民等から暴行、人格や人間性を否定するような言動を受ける等
	11 役割の変化	入庁・異動・配置転換等
	12 地位の変化	昇任・昇格等
	13 特になし	仕事のことに関する要因はない。
② 仕事以外のこと	1 結婚	結婚に伴う出来事
	2 妊娠・出産	妊娠、出産、流産等
	3 子育て	親子の不和、子どもの問題行動、子どもの入試・進学・受験等
	4 離婚・別居	離婚又は配偶者・パートナーと別居
	5 介護	親・兄弟等の介護
	6 死別	配偶者、子ども、親族、友人等の死亡
	7 対人関係	家族や友人との不和、失恋、異性関係のもつれがあった等
	8 事件・事故・災害	天災や火災、犯罪、交通事故等
	9 金銭関係	財産の損失、多額の出費、借金等
	10 特になし	仕事以外のことに関する要因はない。
③ 心身の健康のこと	1 身体疾患	身体疾患の悪化等
	2 精神疾患	精神疾患の悪化等
	3 身体障害	身体障害によるもの
	4 精神障害	精神障害によるもの
	5 特になし	心身の健康のことに関する要因はない。

所属の意見

記入例

記載日： 令和7年 7月 1日

記載事項は右側(裏面) 別表1・2参照

所属	〇〇局〇〇部〇〇課
所属長氏名	幸 花子

療養者 川崎 太郎 について次のとおり報告します。

1 療養に至った経過 ◆初回時記載

令和7年4月に〇〇局〇〇課から現職場に異動(初めての異動)。前職場では窓口業務中心であり、問題なく勤務していた。4月下旬の係長との人事評価面談にて、調整業務が苦手と不安であるとの訴えがあり、前年度担当者を副担当に変更し、サポート体制を整え、業務量を軽減した。その後も週1~2回、突発的な遅刻があったため所属長にて面談を実施。業務の進捗や体調を確認したところ、依然として不安が強く、眠れない等の訴えあり。また、子どもの保育園の送迎や父親の介護が必要な状況であるとの訴えあり。職員健康相談室への相談を促したが、相談に至らず。その後、心配した家族に受診を勧められ、5月10日に〇〇クリニックを受診。服薬で様子を見ていたが、突発休が増えたため、再度面談。病休制度等について説明し、再度主治医に相談するよう促したところ、6月15日に受診し、主治医から自宅療養の指示が出た。

2 療養に至った要因 ◆初回時記載・精神疾患のみ 【別表1・2を参照し記載すること】

①仕事のこと				②仕事以外のこと		③心身の健康のこと				
<input type="radio"/>	仕事の量	対人関係(上司)	<input type="radio"/>	役割の変化	<input type="checkbox"/>	結婚	<input type="checkbox"/>	死別	<input type="checkbox"/>	身体疾患
<input type="radio"/>	仕事の質	対人関係(部下)	<input type="checkbox"/>	地位の変化	<input type="checkbox"/>	妊娠・出産	<input type="checkbox"/>	対人関係	<input type="checkbox"/>	精神疾患
<p>プルダウンから選択(手書きの場合は○か○を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①~③の全ての要因のうち、最もあてはまるものに◎ ・①~③それぞれにおいて、あてはまるものに○(最大3つ) 				<input type="radio"/>	子育て	<input type="checkbox"/>	事件・事故・災害	<input type="checkbox"/>	身体障害	
				<input type="checkbox"/>	離婚・別居	<input type="checkbox"/>	金銭関係	<input type="checkbox"/>	精神障害	
				<input type="radio"/>	介護	<input type="checkbox"/>	特になし	<input type="radio"/>	特になし	

3 本人の状況

毎月面談、必要時メールでやり取り。職場に入ると動悸がするとのことで、職場近くの喫茶店にて面談しており、直近7月1日に面談。日常生活は問題なく過ごせており、日用品の買い物や子どもの保育園の送迎はできている。それ以外の時間は横になっていることが多い。食欲は戻り3食食べているが、睡眠は安定せず、寝入りが悪く、4時間程度しか眠れない。通院は2週間に1回であり、服薬内容の変更はない。主治医からは、仕事のことを考えず、生活リズムを崩さないように心掛けて生活するようにと指導されている。家族は、妻と長男(1歳)の3人暮らしであり、父親の介護は妻が引き受けている状況。仕事のことを考えると不安になるとのことで、復職については依然として難しいと話している。

以上のことから、本人、主治医の診断のとおり、1か月の療養が望ましいと考える。

4 職場の受け入れ体制

就労中も前任者を副担当とし、業務量も軽減していたところであるが、業務内容が本人にとっては負担であったと聞いている。育児や介護が負担であったことから、本人との面談を重ね、復職時の業務については検討したい。一方で、他の業務においても、本人が苦手とする関係機関との調整や折衝を要する業務が多いことから、本人が得意とする業務の捻出が難しい側面もある。本人の負担を軽減しつつ、業務を遂行できる体制について検討したい。

5 所属の意見

- 療養の継続が望ましい 令和7年 8月 31日 まで
- 職場復帰が可能である 年 月 日 から

6 その他

前職場では市民対応がメインであり、たまに体調不良で休むことはあっても、特に問題なく業務を遂行することができていた。本人いわく、複数のことを同時に進めたり、臨機応変な対応が苦手と聞いており、市民対応では、指導担当であった先輩職員にすぐ頼ることができる環境であったことが、本人の支えになっていたと聞いている。現職場でも、前任者に関する体制を取っているが、前任者も忙しく、本人が電話対応等で困っている時にすぐに関けない等の状況があった。